

防災意識の向上へ、住民参加の防災訓練を実施

# 災害に備える地域づくり

地震や水害など、さまざまな災害が毎年のように日本各地で発生している。市では、地域住民の皆さんに、防災に興味を持ってもらい、その意識を高めてもらうため、11月11日に防災訓練を実施した。この特集では、その様子をお伝えしていく。

## 体験型の企画で意識向上を

今回の防災訓練は、谷井田小学校の体育館を「避難所」とし、さまざまな体験型の企画を展開した。

## 避難者名簿を作成

参加者は、実際の避難所を開設したときと同様、まずは受付で避難してきた世帯ごとに名簿を記入していった。避難者名簿の作成は、避難所における最も基本的で、しかし最も重要な手続きだ。この名簿があれば、行方不明者が的確に把握でき、安否確認が迅速に進む。

谷井田地区に住む折本<sup>おりのもと</sup>さんは4歳の息子さんと共に今回の訓練に参加。「避難者名簿を実際に記入したのは初めて。参考になった」と話してくれた。

## AED操作や応急手当講習も

体育館内には、AED操作や心肺蘇生の講習が体験できる展示や、応急手当や担架の作り方を学ぶ展示を用意。参加者は、消防職員や、女性消防団員の手ほどきを受けながら、実際に体験した。

初めてAEDを操作したという松崎<sup>まつざき</sup>さんは「実際にやってみないと、いざというときにAEDの使用をためらってしまうと思う。今回の訓練は本当にためになった」と話し、定期的な開催を希望した。



伊奈庁舎に設置した災害対策本部で、被害状況の報告を受ける片庭市長<sup>かたに</sup>



「シェイクアウト訓練」で一斉に身を守る姿勢をとる参加者